

## 2-10 油壺・鋸山における地殻変動観測 (その5)

### Secular Ground Tilts and Strains as Observed at Abratsubo and Nokogiriyama( 5 )

東京大学地震研究所 油壺地殻変動観測所  
鋸山地殻変動観測所  
Aburatsubo Crustal Movements Observatory  
and Nokogiriyama Crustal Movements  
Observatory, Earthquake Research Institute,  
University of Tokyo

前四報(会報第1巻(1969), 34 - 38; 第6巻(1971), 33 - 36; 第8巻, 27 - 31; 第11巻(1974), 90 - 93)に引き続き, 1973年以降の観測概況を報告する。

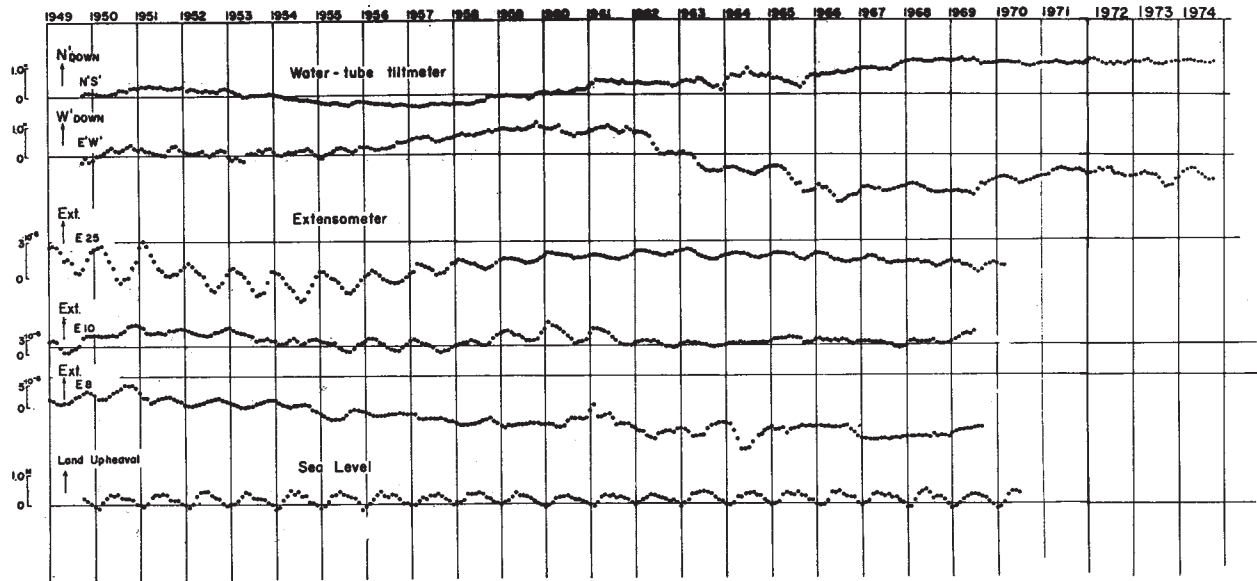
油壺の水管傾斜計 N'S' 成分にはその後も格別の動きは見られない(第1図)。同じく E'W' 成分は1971年中期を境に緩かな E' 下りに転じたが(前報参照, なおその際の傾斜量を2年間弱で約0.5秒としたのは過大見積りであった), その傾向はいまにいたるまで続き, この3ケ年間に0.4~0.5秒程度進んだ。水準測量や検潮との比較から知られている通り, この E'W' 成分の動きは三浦半島の大局的傾動(例えば B.M. F25 に対する油壺の昇降)の経過とある種の相関を示している。その関係がいまも成り立っているとすれば, 油壺ではこの3年間緩やかな沈降が続いているものと思われる。

鋸山の水管傾斜計(第2図)の NS 成分は1973年初期からやゝ N 下りを示している。EW 成分は観測開始(1959年)いらい一貫して E 下りを続け, その量はいまゝで1.2秒に達した。この持続的傾向に重畳して数年単位くらいのゆらぎが見られるが, NS 成分と歩調を合わせ1973年初めからは傾動速度を早めたように見える。両成分に共通して見られるゆらぎが, 移動性地殻変動によるものであれば(第3報参照), まもなくその反映は油壺にも現われるであろう。

なお, 房総半島先端の白浜では, 短基線(6m)の水管傾斜計による補助観測(月1~2回の不定期読取り)を1970年来続けてきた(第3図)。その間, 1973年初めに著るしい変化が NE - SW 成分に現われ始め注目されたが, その後の経過を見るとそれはごく局部的な原因(おそらく観測坑岩盤のひびわれ)によるものかと想像される。このようにして白浜観測点の安定性が損われたおそれがあるので, その肩代りとして今年7月, 近くの野島崎に第4図のような測線を新設し, 簡易傾動測量(会報第8巻(1972), 67 - 74)を始めた。

(笠原慶一, 島津 孝, 高橋辰利)

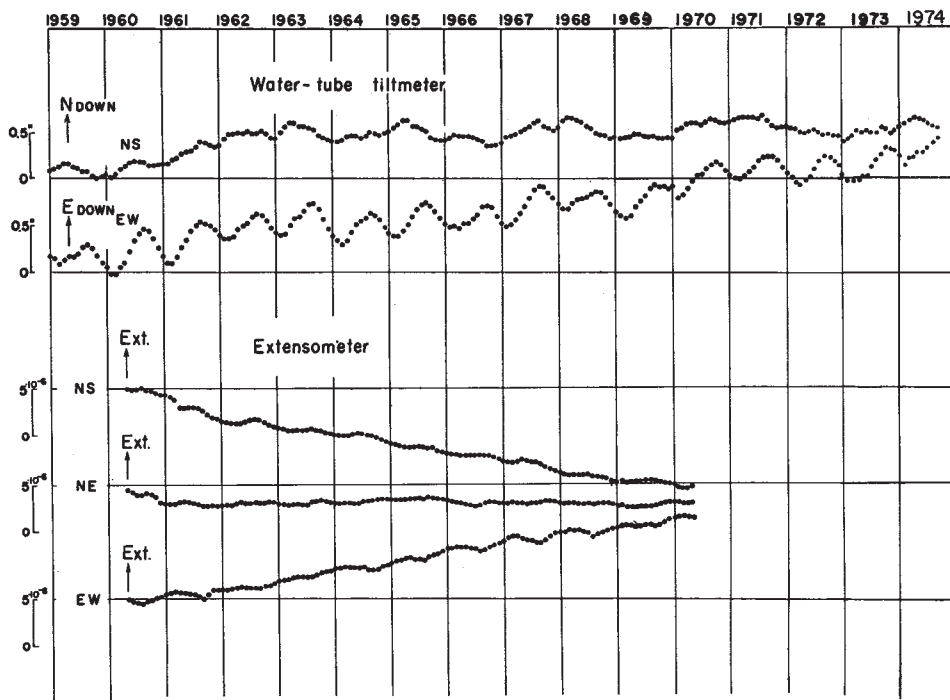
ABURATSUBO



第1図 油壺における土地傾斜・伸縮（月平均値）

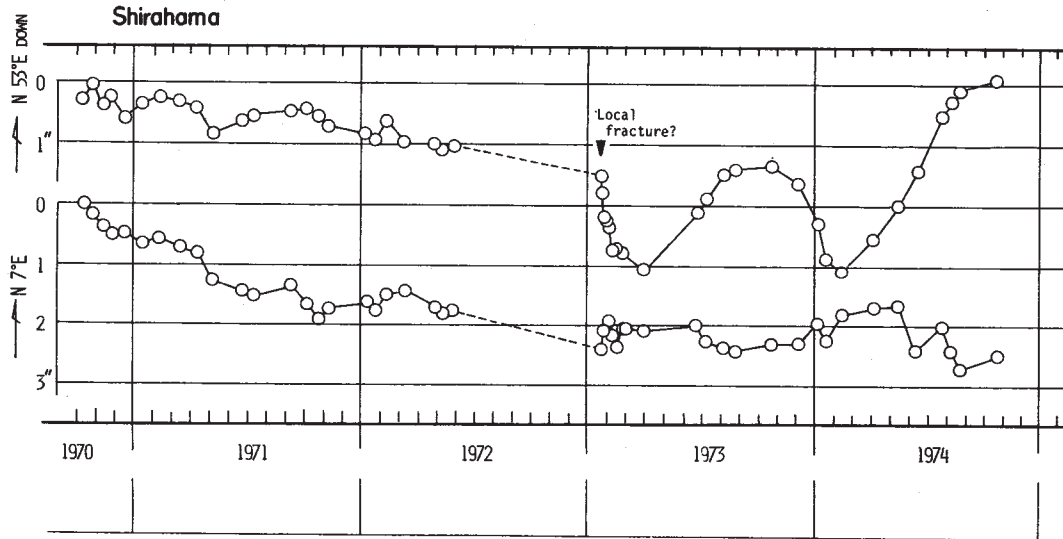
Fig. 1 Ground tilts and strains at Aburatsubo (monthly mean values).

NOKOGIRIYAMA

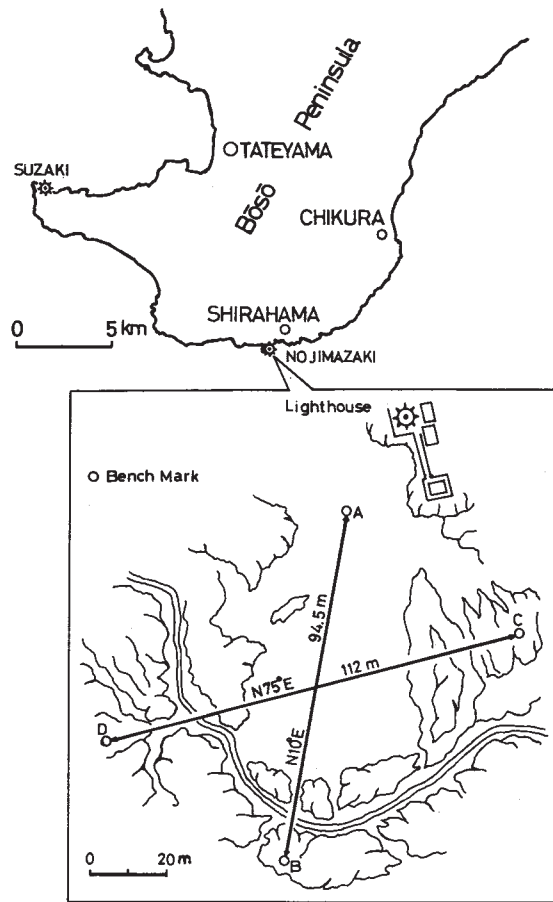


第2図 鋸山における土地傾斜・伸縮（月平均値）

Fig. 2 Ground tilts and strains at Nokogiriyama (monthly mean values).



第3図 白浜観測点における土地傾斜（不定期読取り）  
 Fig. 3 Ground tilts at Shirahama (supplementary station, irregular reading).



第4図 野島崎（房総半島）における簡易傾動測量用基線  
 Fig. 4 A leveling quadrilateral on the uplifted coasts benches (Nojimazaki, Boso Peninsula).